

第20回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成28年5月12日(木)

交流会

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
 - 自分の職種では何ができるか など
- ❁ グループ発表後は、自己紹介タイムです。

◆リハビリ・サルコペニアについて

- ・握力計は高齢者に使いにくい

→「500グラムの砂袋がもてるかどうか」で握力の判断をすることも出来る

- ・リハ栄養、サルコペニアのことについての理解を深める必要がある。まだ知られていない。

- ・リハビリの目的、達成感の大切さ。病院では退院したいという目標を持っているが、在宅では生きる目的や楽しみが見つけられるような関わりをする必要がある

。

- ・サルコペニアのアセスメントができていなかった。アセスメントの大切さを感じた。
- ・利用者の下腿測定を一度してみようと思う
- ・栄養と運動を予防教室で関連付けてしていけるようにしたらいいと思う。気軽に相談できる環境づくり。多職種で情報交換でき意見が聞けるとよい。

◆食事・栄養について

- 認知症利用者の経口摂取や食事の形態については、義歯、残歯の状況によって注意する点や誤嚥への配慮も変わってくる。
- 在宅での栄養管理の判断は？
 - ⇒①BMIの確認②市立病院では栄養相談窓口の活用が可能
- 在宅での食事の摂取方法や形態について考えていくには？
 - ⇒①福祉用具(自助具)の活用、食事の取り寄せドラッグストアの利用

◇過食に対して

- ・寝たきりの方の肥満の評価、対策はどうしたらいいか。太りすぎのコントロールも大切。
- ・在宅では低栄養だけでなく過食も問題になっている。
- ・過食の利用者に対する関わりはどのようにすると良いかが問題になる事も。在宅での対応には家族の理解も必要である。

◇在宅・施設での栄養管理

- 在宅、特に独居の方の栄養管理の難しさを感じる。
- 独居の人の栄養管理については、偏食傾向となりやすいので栄養士に相談したり連携を取って改善を図りたい。またメンタル面から食事や運動リハに意欲を沸かせたい。
- 介護保険で管理栄養士が在宅へ訪問指導可能である(居宅療養管理指導を算定)

- とろみやペースト食は食べにくさがある。
 - 見た目や食器の工夫は大切。食べる意欲、生きる意欲につながる。「食べること＝生きること」
 - 栄養剤による虫歯のリスク 虫歯になりにくい栄養剤があるとよい
 - 食べてもらうためのサンプルを増やす
 - 牛乳を好まない人、牛乳が体調に合わない人にはどうしたらよいか？
- ⇒嚥下状態にもよるが代替食品の活用(ゼリーやカロリーメイトなど)をしてみてもどうか。

◇連携について

- 病院に関わっていない在宅の方に対して、その人に合ったメニューや食べ方を誰に相談すればいいのか(薬を飲まない、栄養に良い食べ物を拒否、嗜好品のみ摂取)。
- 特養での症例について 栄養士以外で他の職種の関わりにはどういったことがあるか。
- 低栄養を把握した時医師にどう伝えるか。栄養師に気軽に相談できるような環境が欲しい
- 病院で低栄養が改善されても在宅に戻ると再び低栄養状態になることがある。

- ・急性期の取り組みが回復期や在宅へ連携されているのか。連携を積極的に行っていけると良い。
- ・病院にはNSTがある。在宅でもNSTのようなチームができると良い。在宅での栄養士のかかわりを増やしてほしい。
- ・運動だけしてもよくない。食べてほしいと思うが食べられない人も。どのようにすれば食べられるのかということを経験者に相談したい。在宅では栄養士につなぐ方法が確立されていない、今後の課題。
- ・施設と病院との連携を今後考えたい。

全体で

「もっと伝えたい」、

「こんなことを感じた」など・・・

- 牛乳が駄目な人→プッチンプリン、卵豆腐でも良
- 利用者に提供している食事について知る。とろみの具合、食べにくさ、味等試食してみて食べやすいものを。形状や温度を変える工夫も(カロリーメイトをアイスクューブになど)
- リハ栄養 「食欲がない」という人に対しては、リハのタイミング、栄養を取るタイミングを考えて。
- 退院後、在宅での栄養に関する支援ができるように配食サービス事業を増やし提供できる地域にしたい。

- 虫歯と栄養剤について 栄養剤は糖質、炭水化物が多いので虫歯になりやすいので気を付けよう。
- 歯科からみて食べることについて在宅療養者に思うこと。フッ素塗布、ブラッシング(難しい場合が多いが)等で虫歯の予防に。経費はかかってしまうが。
- 在宅で栄養面での支援、相談をするにはどうしたらいいのか。つながりたい。
- どこかの事業所に属されている方も多いが、地域にも出て行って他職種と関わる機会をもってほしい。